

ヌマカゼクサ		<i>Eragrostis aquatica</i> Honda	絶滅危惧Ⅱ類
		イネ科	
選定理由	生育地の減少が著しい。もともと極めて生育地が限られているうえ、個体数も少ない。		写真(岐阜県博物館) 標本 
形態の特徴	稈は直立し、高さ15-50cm。葉身は長さ5-20cm、幅2-5mm。葉鞘の口部に長毛が生え、花序は長さ5-15cm、枝にややまばらに小穂をつける。小穂は7-22小花からなり、長さ5-15mm。		
生態的特徴	イネ科の多年草。花期は8-9月。溜池の岸部にできる湿地などに生育する。溜池では、降水量が少ない年などに、水位が下がって岸部の裸地が広く出現すると、多くの個体数を確認できることがある。		
分布状況	日本固有種で、本州中部地方から中国地方、四国に分布する。岐阜県では、県南中部でごく稀に見られる。		
減少要因	溜池の改修などの大規模な土地改変。また、宅地造成や道路建設などによる溜池を含む里山の破壊。		
保全対策	溜池とその周辺環境の管理。岸部の裸地や湿地をつくり出すような対策は必要。		
特記事項			
参考文献	原色日本植物図鑑・草本編Ⅲ 保育社 1964 日本の野生植物草本Ⅰ 単子葉類 平凡社 1982 増補日本イネ科植物図譜 平凡社 1993		

文責:福岡義洋